



邪悪な男たちの息の根を止めよう

邪悪な男とはどんな男か。前号で取り上げた中川八洋筑波大学教授や雑誌の対談で問題発言をした西村真悟防衛政務次官のような男をいう。彼等は公の場で、「女は40過ぎたら肉のかたまり。道德、社会規範の教育は女にはできない」「男は2号3号に子を生ませて少子化を防ぐ」（中川）、非核三原則を否定し、「核とは抑止力である。罰がなければ男はみんな強姦魔になるのと同じだ」、集团的自衛権は、「強姦されている女を男が助けるという原理」、集团的自衛権を否定する女性議員にむかって、「オマエが強姦されても絶対に救ってやらん」（西村）など、女性の性を傷付けることは平気で言える男だ。

中川という教授への抗議はその後も続けているが、この西村という議員もあまりの凄まじさに新聞すら活字にするのをはばかったような「強姦」ことば大好き議員。50年前はこういうレベルの男たちが戦争を好み、侵略した他国の女たちの性を凌辱したのだろう。罰がなかったら強姦するという発想は議員の皮をかぶった狼である。青少年への影響からしてもこのまま議員の席にいるなんて許されないことだ。

2人の発言を読むと、女を見下していることと平和を見下しているところが共通している。女の地位も平和もここまてくるのにどれほどの運動と時間がかかったことだろう。たくさんの人々の努力と犠牲と時間を軽々しく否定する邪悪な男たちだ。

次の国政選挙では選挙区（大阪17区）の女性たちとネットワークを組み、「強姦」ことば遊びをする議員の息の根を止めよう。

女性を蔑視する講演で稼いでいる男を、国立大学から追い出そう。

この国の女として、こんな人たちに税金を払うのはごめんだ。

今夏、長崎の県町村議会研修会の講師として「戦争肯定、女性蔑視」をぶちまけた
中川筑波教授に対しては、決して許さない運動を続けています。

(これまでにばってん・うーまんの会で作っている分を書いてみます)

- 8/27 「講演内容への抗議と謝罪を求める申し入れ書」 日本共産党長崎県委員会 (長崎)
9/1 「議員研修会講師の問題発言についての抗議と公開質問」 ばってん・うーまんの会、県運動ネットワーク
9/7 「文部大臣」「筑波大学学長」「長崎県町村議会会長」へ抗議文 市内女性団体(9月号にあり)
9/9 「中川筑波大学教授の講演内容についての抗議と申し入れ書」賛同のお願いを、県
内女性議員各位あてに出す 中川院に怒る長崎女性結

賛同者が続々と出た

長崎県下女性議員14名

女のサポートライン

日本共産党ボランティアセンター

婦人民主クラブ

東京労働安全衛生センター

性暴力を考える会(グループTEM)

別性を考える会(宮城県)

民法改正を求める機運の会

個人 70名 その後28名追加

- 9/10 県町村議会議長会会長・副会長名で各町村議会議長宛に「迷惑をかけ、大変遺憾」
との文書がでるが謝罪はない。

- 9/17 議長会事務局長がうーまん会事務局にきて口頭で回答

今回の講演内容については事前のチェックは難しかった

新聞に記載された発言内容は事実であることを認める

録音テープは有るとも無いともいえない

文書での回答を求め、帰ってもらった。

- 9/21 「講演内容について抗議する意見書」 高知院

「講演内容についての抗議」 有知院

- 9/27 「講演内容への抗議と謝罪を求める申し入れ書」 西有知院

- 9/29 「中川筑波大教授の講演内容についての抗議」と当日の録音テープの受け取りに
議会事務局へ 19名

ばってん・うーまんの会

新婦人の会

女性議員3名

中川院に怒る長崎女性結

9/23 「筑波大学長」へ抗議文・抗議はがき

長崎県教職員組合女性部、県・母と女性教職員の会、長崎総支部

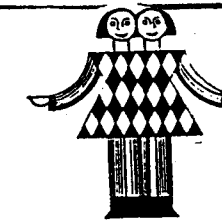
録音テープについては知らないの一点張りだが、録音した業者がいる事実を出し
一週間後に取りに行くことを宣告する。

この日初めて会長に会うが、私もテープのことは知らないと答える。

- 10/6 録音テープを受け取りに行くが事務局長は出張中とのことだった。

- 10/13 この日も出張中とのことで責任者はいなかった。

- 10/15 「中川教授の所属する学類長・学系長」宛と新文部大臣宛 抗議文 他7団体



ミス・コンテストの謎



ミス佐世保募集 「素敵なお嬢さんを推薦してください」と新聞には募集のお知らせ
が出ていた。

「スリー・サイズを書いてください」とも書いてあった。

まだスリーサイズなんて女性を貶める品の悪い事を要求して!と古いな~と思いつつ
どうして推薦者がスリーサイズ知っているのかな?と不思議になった。

彼等の

美女がはべるバーがあれば、ホストクラブというものもある。女性の美を楽しむショー
があれば、男性の肉体美を女性が鑑賞するショーも大都会にはある。それはそれで結構。

2, 3日前の新聞には「ミス島原 決定」とでていた。なぜ「ミスター島原」はないの
かな? 「ミスター~」という場合はボディビル・コンテストだ。ボディビル・コンテス
トはいやな気がする。それは自身の筋肉を自らの努力で作上げた成果を競うのだから。



ミス・コンテストと聞いて、どうしてこんなにイヤな気がするのだろうか? もやもや
していたら柴門ふみの文章に出会った。文春文庫「サイモン印」。すこし長いが引用する

「一人一人名前を呼んで前方に進みださせ、舞台を一周して体をさらす。まるでペルシ
ャの奴隷市場ではないか。私は昔見た映画を思い出した。——いわゆる伝統のミス・コ
ンテストは、この奴隷市場と同じ方式をとっている。ミス・コンをよだれを流しながら喜
んで男たちが見る訳は、自分たちがまるで奴隷市場の買い手にでもなったかのような錯覚
に陥るからなのだ。「女性の美を正當に評価しているだけなのです」と紳士然としてミス
コン擁護の男性が語ったところでカタハラ痛い。彼らのリビドーを刺激するから、男達は
ミス・コンが好きなのだ。素直に認めたらどうだ、と私は言いたい。奴隷市場の水着の美
女—このくらい男たちのいやらし気な妄想をかきたてるシチュエーションはないと思う。
——問題なのは、旧態依然のステージ進行のミス・コンを文明社会においてあたかも
文化事業のように行うことなのである」



やっぱりそうか! 女性を奴隷化することによって自分は力があると錯覚し、錯覚に酔
うことで卑小な自分を大きく感じたいのか。

だからスリーサイズが必要なのだ。それは女性から人格をとっばらって物化する方法な
のだから。なるほど、だからミスターコンテストは許せないのだ。

男たちは、

自治体はミス・コンを主催しているのは新聞社だとか、商工会だとか観光協会だとか弁
明する。男女共同参画社会とか言いつつ、女性を物化するイベントに協賛金はださないで
ほしい、市の行事にミスを使わないでほしい。女だって税金払ってるんだ。

《活かそう、男女共同参画社会基本法》9月号より続く

ばってん・うーまんの会ではシンポに先立って、報告の内容を検討していましたので、発表者としては大変助かりました。報告の要旨は以下の通りです。

①「女性議員をふやそう・ながさき」を、今年6月長崎の女性グループと一緒に結成した。最初の二年は女性が政治の場に参加するためのエンパワーとして勉強会を行って、後半の二年は実際に県議選で無党派の女性議員を当選させる活動を行う予定である。

②「基本法」が成立したことをふまえて、県や市に条例を作るよう要求する。

この場合、条例制定委員会なるものについて、その委員の情報開示を求めるとともに、NGOからの参加を求める。また国が行ったように、中間報告の開示と論点整理も要求する。さらに長崎の女性の実態に即した条例作りを求める。

③県や市の女性政策の部署の権限拡大をはかりたい。「基本法」にもあるように自治体のあらゆる施策についてジェンダーチェックができる総合調整機能を持つためには首長直属機関が望ましい。

④上記の②③を実現するためにはいずれにしても私たちの味方になる女性議員をもっと増やすことが必要だ。陳情などの紹介議員になってもらったり、議会で行政に質問・要求してもらうためにも。

北京 JAC の会合でいつもいわれるキーワードが二つあります。

それは情報公開とネットワークです。

特にネットワークに関しては北京 JAC のおかげで、同じ思いを持つ全国の女たちと知り合え、お互いに情報交換をしたり、討論することができるようになりました。

「女性議員をふやそう・ながさき」の発会式には、北京 JAC 山口の事務局長の小柴久子さんを招いて、今春の県議選でいかにして女性議員をトップ当選させたかなどのお話をしてもらったり、また今回のシンポではその当選した久保田后子議員から、ばってん・うーまんの会が取り組んだ「チカン犯罪です」という立看要求の活動について資料を頼まれたりと、ネットワークの輪がどんどん広がっているなあと実感しました。さらに10月には北京 JAC の副代表である中嶋里美さんに、「ふやそう・ながさき」の勉強会として講演をしてもらう予定もあります。

こうして女たちの連帯が大きな力となって、女が性別に関わりなく自由に自己の生き方を選択できるような社会を実現させると確信しています。そのために私たちはこれからも、したたかに、軽やかに、そして楽しく活動し続けたいと思います。

